を図る。

以上のような効果的な配慮は、次にあげる実践が相互に結びついてこそ生きてくるものであることがわかった。

五　実践の内容

㈠　単位時間別展開案の作成及び活用

作成に当たり、体育学習の楽しさの配慮として、前年度までの配慮に加え個人への配慮を明記し、意欲及び技能の向上、事故防止に心がけた。

（資料2参照）

＜展開案活用の効果＞

○　指導目標、内容、展開などが改善充実され、具体的でよかった。

○　教材内容がよく理解でき、指導に自信を持って当たることができた。

○　児童一人一人に意図的に配慮することが増えた。

○　教師の役割分担などが明確になっているとともに、準備品が適切に配置でき、むだな時間がなくできた。

（以上、各学級担任の意見から）

㈡　学習カード『がんばれカード』の作成及び活用（資料3参照）

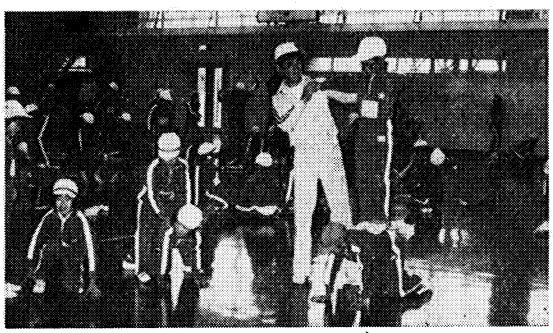
児童にとって楽しい学習カードであるようにするため、次のことに留意した。

①　表紙には、その月の学習内容が一目でわかるように、学習内容を絵（ぬり絵ができる）で表現した。

②　めあてに対して自己評価できる形式にした。

③　授業の感想や要望を絵や文で自由に表記できるようにした。

④　教師との通信欄を設けた。



うまくできたぞ

＜学習カード「がんばれカード」の活用の効果＞

○　児童に励みを持たせることができた。

○　児童一人一人が、各題材のねらいを把握していた。また、自分の得意不得意がわかり自信がついた。

○　児童一人一人がめあてを持ち、進んで学習に取り組むことができた。

○　児童自身がその教材について、どこまで伸びることができたかなど知る手がかりとなった。

○　児童の授業に対する感想を知り、授業改善に役立った。（以上、各学級担任の意見から）

資料2　単位時間別展開案例　　蓬莱小2年

4月1時　題材名　二人鬼・ジャングル遊び

ねらい	学習活動・内容	個人(差)への配慮	指導の反省
• 二人鬼の遊び方を理解させ、きまりを守って遊べるようにする。 • ジャングルジムや登り棒の正しい使い方を知り、楽しく遊ぶことができるようにする。	1、集合、整列し本時の学習について話し合い、準備運動をする。 担1……準備運動　担2…個別指導 担3/4……鬼遊びコート作成(4) 〈A、B〉 2、二人鬼の遊び方を知る。担 (1)遊び方を話し合う。 ●鬼　◎教師 ●人数は10人程度、コートは常設のトラックやボール運動用のコートを利用してもよい。 (2)きまりについて話し合う。 • 鬼は手をはなさない。 • 逃げるものはコートから出ない 3、二人鬼のゲームをする。担 • 初めは教師が鬼になって • 鬼を交代して ●約束やきまりはきびしく守らせる。 〈C、D〉 2、ジャングル遊びをする。担 (1)すべり台で遊ぶ。 • 伏臥 • 工夫して ●押したりしないように注意する。 (2)ジャングルジムでくぐりぬけをする。 ●バーをにぎった人の手をふまないようにさせる。 (3)登り棒で遊ぶ。 • 腕の引きつけと足のけり (1)登り棒で遊ぶ。 (2)すべり台で遊ぶ。 (3)ジャングルジムでくぐりぬけをする。	◇二人鬼遊びでは、特に動きのにぶい児童や友だちが少ない児童などと相手になってやる。 ◇木村と秩田は、統率力もあるので初めに審判をさせる。 ◇計時係にはストップウオッチを持たせ、笛で合図させる。雄一郎 ◇堀は、教師と組ませ、根気よく追いかけたり、つかみ方を指導する。 ◇登り棒では肥満気味の岩本、泰範、堀江を励ましてやる。 ◇遊具遊びでは、勝手な行動をとりやすい長沢、高野、堀、半沢を中心に個別指導する。 ◇大木は抜糸して間もないので教師の補助をさせる。	◎二人鬼遊びのやり方がわかり、遊べるようになったか。 • 楽しく運動量もあった。 • 動きがはやいため、ふざけている児童がなく、よい教材である。 • 木村はあまり興味を示さなかった。 • 計時係に興味を示し、ストップウオッチをいじりたがっていた。 • 教師と組まなくても仲良くできた。 ◎施設の正しい使い方がわかったか。 • すべり台を伏臥ですべるのを特に好んだ。（ウルトラマン） • 岩本、泰範、堀江が合格、みんなで拍手してやった。 • ジャングルジムで堀が手離しをやりおちそうになり、だきかかえてやった。 • 高野は高い所が弱く、バーを足のうらではなく、ひざで上がっていた。 • 女子に腕の力のないものがめだった。

〈展開案に使用されている記号〉

A～D	学級名	ローティーション
担1～担4	担任名	◇ 個人(差)への配慮
●	指導上の留意点	◎ 評価